

1 対象年次、単位数、使用教科書

1年次 (必修) 2単位

教科書：新家庭総合 パートナーシップでつくる未来 (実教出版)

2 科目の目標

ひとり立ちし、自分の生活をデザインするなかで、かかわりあって生きることの大切さや人の暮らしに必要なものについて考え、よりよく生きることを目指し、自ら考え判断できる態度を培うことを目標とする。

3 評価規準 (何を評価するか)

- (1)自分らしい生き方について考えることができる。
- (2)家族とは自分にとってどのようなものか考え、多様な生き方、暮らし方、家族があることを理解できる。
- (3)乳幼児の身体的発育・発達と生理的特徴や心の発達の特徴について理解し、発達の観点からすこやかに育つための望ましい環境について考えることができる。
- (4)高齢化社会の現状と課題について知り、高齢者がいきいきとした生活が遅れるような社会のしくみについて考えることができる。
- (5)食文化について分かる。
- (6)栄養素のはたらきと多く含む食品について理解できる。
- (7)栄養素のはたらきと多く含む食品について理解し各年代の必要量について分かる。
- (8)適切な食品選択や保存方法について理解できる。
- (9)これからの食生活のあり方について考えることができる。

4 評価基準 (どんな方法で評価するか)

右記レポート内容の標準的な部分まで理解できている場合、また発展的な部分まで学習できていると判断される場合において、その理解度に応じて評価する。基本的な部分のみが理解できている場合、または、基本的な部分も理解できていない場合は再提出とする。なお、標準的・発展的な部分でさらに理解を深める意味から再提出する場合もある。

5 試験範囲と試験による評価基準

R 1～R 3の範囲で7月試験、R 4～R 6の範囲で10月試験を実施。なお、29点以下については再試験とする。

再試験を繰り返してもなお基準点(30点)に達しない場合は単位認定しない。

6 スクーリングの目標・内容・計画

スクーリングは、生徒の質問に個別に対応する。家庭総合-1では、家庭生活に関する基本的事項について知識、理解の定着を促すよう指導する。また選択科目「フードデザイン」「生活と福祉」「子どもの発達と保育」につなぐ興味や関心をいあくような発展的指導をする。

| R | 項目 | 内容 | 教科書 | 時期 |
|---|--|--|---------|------|
| 1 | 人とかかわって生きる 自分らしい生き方と家族 | ・自分らしい生き方について ・現代の家族の特徴及び機能について ・家庭を支える労働の意義や特徴、課題について ・家族に関する法律について、その内容と問題点 | 4～27 | 5月上旬 |
| 2 | 子どもとかかわる | ・乳幼児の身体的発育・発達と生理的特徴や心の発達の特徴について ・すこやかに育つための望ましい環境について | 28～57 | 5月下旬 |
| 3 | 高齢者とかかわる 社会とかかわる | ・加齢による心身の変化について ・介護の基本技術 ・日本の社会福祉制度の現状について | 58～81 | 6月下旬 |
| 4 | 生活をつくる 食生活をつくる (1)人と食物とのかかわり (2)私たちの食生活 | ・食文化について ・栄養素のはたらきや食品の栄養的特徴と私たちの食生活について ・郷土料理について | 82～91 | 7月中旬 |
| 5 | (3)栄養と食品のかかわり | ・五大栄養素と含まれる食品の特徴について | 92～101 | 8月下旬 |
| 6 | (4)食品の選び方と安全 (5)食事の計画と調理 (6)これからの食生活を考える | ・栄養摂取の基準量や食品群別摂取量のめやすと日常の食事との関連づけ ・食品選択のポイントや保存方法について ・食中毒や食品添加物などについて ・栄養バランスのとれた食事の重要性や年代ごとの献立の特徴 ・安全で衛生的な食生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識 ・ホームプロジェクト | 102～139 | 9月中旬 |